

## 第27回

# 中学生訪中親善訪問団報告書

令和7年3月25日（火）～3月30日（日） 6日間

南昌・上海



公益  
財団  
法人

Takamatsu International Association  
**高松市国際交流協会**

# 第27回中学生訪中親善訪問団

高松市・南昌市友好都市提携 35 周年記念 特別企画



事前日本茶道・マナー研修



日本茶・県産品試飲・試食会開催



中国の伝統文化体験



歓迎食事会、南昌市人民政府表敬訪問

## 南昌市第二十八中学校との交流



贛繡（江西刺繡）の手工芸体験



書道扇子の手工芸体験



ドローンショー鑑賞・ドローン操作体験



中国編み物の手工芸体験



高松市紹介プレゼンやクイズ大会、部活動紹介（剣道、なぎなた、琴）、盆栽体操、落語実演など



中国京劇、歌と踊り等

芸術交流会の様子

南昌市での見学、観光等



『南昌市都市計画展示センター』



『南昌 VR テーマパーク』



南昌無形文化遺産『木彫』の手工芸体験



『高松・南昌友好会館』



『滕王閣』



『萬壽宮歴史文化街区』

南昌市でのホストファミリー体験



ホストファミリー対面式

上海市内観光



『上海自然博物館』



『豫園』

# 目 次

I	団 員 名 簿	1
II	日 程	2
III	訪問団の活動状況	3
IV	感 想 文	19

## 第27回高松市中学生訪中親善訪問団 団員名簿

	氏名	性別	所属	
団長	まえかわ ゆうじ 前川 雄治	男	高松市学校教育課	指導主事
引率	おう しょうじゆん 王 暁純	女	(公財) 高松市国際交流協会	事務局員
1	こまつ あみり 小松 亜弥理	女	高松市立桜町中学校	2年生
2	しまず よう 島津 陽	男	高松市立高松第一中学校	2年生
3	そがめ あんり 十亀 杏理	女	高松市立龍雲中学校	1年生
4	たむら ゆか 田村 優佳	女	香川県立高松北中学校	2年生
5	つむら わか 津村 和花	女	香川大学教育学部 附属高松中学校	1年生
6	ひらおか しょうま 平岡 昇真	男	高松市立協和中学校	2年生
7	まるぐち よしの 丸口 由乃	女	高松市立紫雲中学校	1年生
8	よしだ 吉田 ゆりか	女	高松市立木太中学校	2年生

※学年等は派遣当時のもの

## 第 27 回中学生訪中親善訪問団 日程

	主 な 行 事	宿 泊
3 月 25 日 (火)	11:00 高松空港集合 (出発式) 13:00 高松空港発 (春秋航空 9C-8890 便) 14:30 (中国時間) 上海浦東国際空港着 <b>【上海市観光プログラム】</b> 夕食 (上海料理) 後、上海雑技鑑賞	(上海泊) SKY BIRD HOTEL
3 月 26 日 (水)	8:53 上海虹橋駅より高速鉄道 G1373 便 (1 等) にて南昌西駅へ 12:15 南昌西駅着 <b>【南昌市交流プログラム】</b> 南昌の星観覧車から都市全景を一望 南昌無形文化遺産『木彫』の手工芸体験 ホストファミリー対面式	(南昌泊) 生徒:ホームステイ 引率:南昌滕王閣ヒルトン・ガーデンイン
3 月 27 日 (木)	<b>【南昌市交流プログラム】</b> 午前 高松・南昌友好会館見学 南昌市人民政府表敬訪問 友好都市提携 35 周年 特別企画イベント開催 中国伝統文化体験 12:00 南昌市外事弁公室主催の歓迎宴会 (江西料理) 午後 南昌市第二十八中学校との交流活動 ・キャンパス見学・ドローンショー鑑賞、 ドローン操作体験・書道扇子の制作と贈呈・ 贛繡 (江西刺繡) の手工芸体験・中国編 み物の手工芸体験・歓迎懇談会・芸術交 流会・学校食堂で給食体験	(南昌泊) 生徒:ホームステイ 引率:南昌滕王閣ヒルトン・ガーデンイン
3 月 28 日 (金)	<b>【南昌市交流プログラム】</b> 午前 南昌市都市計画展示センター、南昌 VR テー マパーク見学 午後 滕王閣、萬壽宮歴史文化街区観光 夜 ホームステイ家庭訪問 (3 家庭)	(南昌泊) 生徒:ホームステイ 引率:南昌滕王閣ヒルトン・ガーデンイン
3 月 29 日 (土)	8:40 南昌西駅より高速鉄道 G1384 便 (1 等) にて上海虹橋駅へ 12:17 上海虹橋駅着 <b>【上海市観光プログラム】</b> 午後 上海自然博物館、外灘、南京路、豫園観 光後、夕食 (北京料理)	(上海泊) 上海大衆空港賓館北楼
3 月 30 日 (日)	8:45 上海浦東国際空港発 (春秋航空 9C-8889 便) 12:00 (日本時間) 高松空港着 (解散式)	

# 訪問団の活動状況

3月25日（火曜日）訪問団1日目 高松～上海

●団員 小松亜弥理 より



6日間の訪問を前に、不安7割・期待3割という気持ちで飛行機に乗り、無事に上海空港へ到着することができました。

驚いたのは、空港に地下鉄のような電車があることです。あまりにも空港が広いので、乗り場とロビーを往復する空港内専用の電車が走っているそうです。これは日本ではなかなか考えられない光景でした。

また、出口ではファンや家族を待つ多くの人が、小さな旗やプラカードを手にして立っており、まるでテレビで見るような場面に出くわしました。

上海料理では、初めて食べる料理が多かったものの、辛いものが少なく、比較的日本と似た食材を使っていたため、食べやすくとても美味しかったです。ただし、油を多く使った料理が多いため、ダイエット中の方にはやや不向きかもしれません。

上海雑技では、中国の伝統的な赤い油紙傘を使った演出がありました。これは古代の結婚習慣で、花婿が花嫁を迎える際に使い、邪気や災難を払う意味があるそうです。

他にも、フラフープやシーソーを使った、まるで体操選手のようなダイナミックで芸術的な動きや、7人のバイクが球体の中を高速で回る演目もありました。バイクごとにライトの色を変えることで、幻想的で多彩な光景が広がり、サーカスとはひと味違った迫力と感動がありました。



上海雑技の幻想的な舞台

## ● 団員 島津陽 より



高速鉄道の上海虹橋駅の様子

昼食後は、かつて世界一の高さを誇り、現在は世界第3位の観覧車「南昌之星」に乗りました。これまでに乗った観覧車とは比べものにならないほどの高さで、そこから見える景色は本当に美しかったです。

その後、近くを少し散策したあと、いよいよ今回の訪問で最も楽しみにしていたホームステイ先のファミリーとの対面式が行われました。お互いに緊張していたものの、すぐに打ち解け、英語や翻訳アプリを使いながら楽しくコミュニケーションを取ることができました。

ホストファミリーのご厚意で、中国でよく使われている電動バイクに乗せてもらい、南昌のシンボルである「八一広場」へ向かうため、まずは最寄りの地下鉄駅へ移動しました。駅に到着し、階段を上がると、目の前に非常に大きな歴史資料館があり、その迫りに圧倒されました。そして、広場の名前の由来となった出来事—中国共産党による「八一蜂起」を記念して建てられた記念塔を見学しました。塔は、蜂起した八一軍の旗と銃剣を模したデザインで、とてもかっこよく印象に残りました。

こうして、26日のプログラムを無事終えることができました。

朝8時頃に起き、タクシーで高速鉄道の上海虹橋駅へ向かいました。乗車中、車内の表示で列車の走行速度が「300km」となっているのを見て、鉄道大国・中国の技術力の高さを実感しました。約3時間半の乗車の後、南昌西駅に到着しました。

到着後はバスが迎えに来てくれ、南昌の有名ホテルにて昼食をいただきました。中国といえばやはり大きな円卓。回転式のテーブルにはたくさんの料理が並び、どれも美味しく、楽しくいただくことができました。



世界3位の観覧車「南昌之星」



八一広場の「南昌八一起義紀念館」

●午前 団員 十亀杏理 より

ホストファミリーと一緒に温かい中国の家庭料理をいただいた後、ホテルに集合しました。その後、高松・南昌友好会館を訪れ、高松市と南昌市の友好関係の歴史に関する動画や資料を見学しました。館内には、歴代高松市長の顔が描かれた陶磁器が展示されており、最初は写真かと思いましたが、すべて手書きで描かれていると聞き、とても驚きました。

表敬訪問では、南昌市の副市長から南昌市の歴史や魅力についてお話を伺うことができました。最後に南昌市からお土産をいただき、その中に入っていた南昌市オリジナルの黒猫と白猫のマスコットは団員の間で大人気となり、私も気に入って後で追加購入しました。

その後は、中国伝統文化体験イベントに参加しました。みんなで漢服（中国の伝統衣装）に着替え、ファッションショーやお茶会を楽しみました。美しい衣装をまとったお姉さんたちによる舞や演奏はとても魅力的で、目を奪われました。



陶磁器に描かれた市長



南昌黒猫白猫



芸術的な飴細工

高松市・南昌市友好都市提携35周年特別企画イベントで、日本のお菓子を紹介し、オリーブ茶や抹茶も多くの方々に飲んでいただけて、日本の文化の魅力を伝えることができたと感じました。

南昌市側の催し物もたくさんあり、匂い袋や風鈴づくりなどの体験が行われました。

中でも特に印象に残ったのは飴細工で、一筆で描くようにして立体的な蝶や龍を鮮やかに作り上げる技術には感動しました。

高松市・南昌市友好都市提携 35 周年記念特別企画  
高松・南昌友好会館で「日本茶・県産品試飲試食会」を開催



ゆかた着用で礼法正しく日本茶を提供



高松市からの盆栽シールをどうぞ



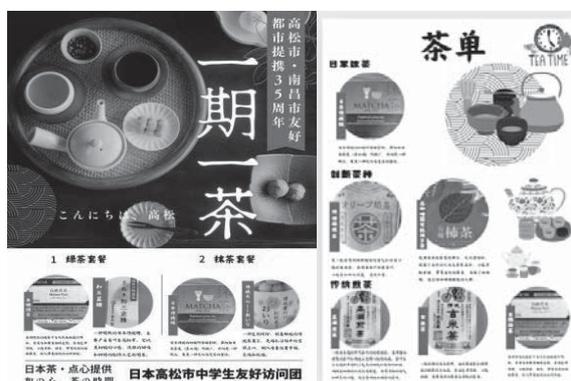
うどん県からのうどん揚げお菓子いかがですか



演奏者にも、お疲れ様



南昌市外事弁公室 申継明調研員（左）、  
高松・南昌友好会館 周遊館長（右）からの祝辞



イベント用チラシ（抜粋）

本催しは、高松市と南昌市との友好の絆をさらに深めるとともに、香川県および高松市の魅力を現地の方々に広く紹介することを目的として開催されました。

会場では、香川県を代表する高瀬茶をはじめ、オリーブ茶や抹茶、そして日本の伝統的なお菓子などが提供され、多くの来場者が興味深そうに試飲・試食されていました。

来場者の中には「日本茶を飲むのは初めて」という方も多く、その繊細な香りやまろやかな味わいに感動し、驚きの声を上げる場面も見られました。訪問団員にとっても、自らの手で日本文化を紹介し、直接反応を受け取ることができたこの体験は、大変貴重で意義深いものとなりました。今後の国際交流活動への自信と意欲を育む、実りあるひとときとなりました。

## 南昌市人民政府への表敬訪問



温かい出迎え



代表者挨拶



団員自己紹介



記念品贈呈

### 南昌市表敬訪問出席者名簿（南昌市側）

1. 安 宝軍 中国共産党南昌市委員会 常務委員、副市長
2. 陳 吉煒 南昌市人民政府 副秘書長
3. 牛 麗坤 南昌市人民政府外事弁公室 主任
4. 謝 敬鈞 南昌市教育局 副局長
5. 徐 一凡 南昌市第二十八中学校 校長

※職務は表敬当時のもの

訪問団は、南昌市の友好都市としての受け入れに対し、南昌市人民政府を表敬訪問しました。会場となった高松・南昌友好会館では、中国共産党南昌市委員会常務委員、副市長の安宝軍氏をはじめ、南昌市人民政府副秘書長の陳吉煒様、南昌市人民政府外事弁公室主任の牛麗坤氏、南昌市教育局副局長の謝敬鈞氏、南昌市第二十八中学校長の徐一凡氏など、多くの関係者の皆様に温かく迎えていただきました。

安宝軍副市長と前川団長より代表挨拶がありました。安宝軍副市長は、南昌市の歴史や文化について触れ、「南昌は中国革命発祥の地として知られ、八一南昌起義の精神を受け継ぐ英雄の都市であると同時に、自然と人文が調和した魅力的な街でもあります」と述べました。また、南昌は近年、教育、科学技術、経済の分野でも著しい発展を遂げており、若者たちの国際的な視野を広げるための取り組みにも力を入れていると紹介しました。さらに、「高松市との友好都市提携 35 周年という大きな節目を迎える本年に、若い世代同士の交流を通じて、心と心が通い合う真の友情がさらに深まることを期待しています」と語り、今後のさらなる協力と交流の発展に強い期待を示しました。

前川団長は、これまで両市の各分野で活発な交流が積み重ねられてきたことを振り返りました。「今年もこうして南昌を訪問できたことを大変うれしく思うと同時に、熱烈な歓迎と温かいおもてなしに心が震えています」と述べました。また、この事業が継続されてきたのは、南昌市人民政府をはじめ、教育局、外事弁公室、各学校、そしてホストファミリーの皆様のご協力の賜物であるとして、深く感謝の意を表しました。さらに、次世代を担う中学生たちが国境を越えて交流を重ねることは、彼らの人生にとって大きな財産となるとともに、両市の友好と青少年の相互理解をさらに深めるものであると確信していると語りました。

続いて、団員一人ひとりが自己紹介を行い、南昌市での印象や訪問に対する期待などをそれぞれの言葉で表現しました。表敬訪問の後半には記念品交換が行われ、高松市長から南昌市長への親書と日本伝統工芸品が贈呈され、南昌市側からも団員一人ひとりに南昌市オリジナルの記念品が配布されました。

今回の表敬訪問は、長年にわたり築かれてきた両市の信頼関係と友情を改めて確認する機会となり、若い世代の交流の意義と可能性を再認識する貴重な場となりました。今後も高松市と南昌市の友好関係が一層強固になり、継続的な青少年交流がさらに広がっていくことが期待されます。



高松・南昌友好会館前

「春日物語・拈花拾趣」日中青少年 伝統衣装での友好花見交流会について



漢服ファッションショー鑑賞



中国音楽を楽しむ



中国伝統的な礼法であいさつ



集合写真

春の陽気に包まれた青山湖のほたりでは、満開の桜が美しい風景を彩る中、南昌市外国語学校の生徒たち、南昌市の漢服文化愛好者、そして訪問団員など、総勢約 80 名が一堂に会しました。

本イベントは、「伝統衣装」をテーマに開催され、春の自然の美しさと調和する形で、日本と中国の若者がそれぞれの伝統衣装を身にまとい、互いの文化に触れる貴重な体験の場となりました。参加者たちは、漢服の着付けや、伝統的な礼儀作法の実演、衣装を通じた歴史的背景の紹介など、多彩なプログラムを通して、両国に共通する精神性や美意識への理解を深めました。

イベントを通じて、青少年同士の交流が自然と生まれ、相互理解と文化的共感が深まる有意義なひとときとなりました。伝統文化に対する関心と尊重の気持ちが、今後の継続的な友好関係の礎となることが期待されます。

## 南昌市外事弁公室主任主催の歓迎宴会



素晴らしい時間を共有できました

訪問団の団員を歓迎する公式宴会が、南昌市外事弁公室の主催により開催されました。この会は、両国の青少年交流を一層深めるとともに、未来の国際友好の架け橋となる若者たちを心から歓迎するために設けられたものです。

歓迎の挨拶では、南昌市外事弁公室の牛麗坤主任が、「ようこそ歴史と文化の都・南昌へ。皆さんの訪問を心より歓迎いたします」と日本語で温かい言葉を贈られました。また、「若い世代の交流こそが、真の友好を築く鍵です。今回の訪問を通じて、南昌の文化に触れ、人々と交流し、心のつながりを深めてください」と、今後の中日友好に向けた期待を述べられました。

会場では、南昌の郷土料理が提供され、笑顔と拍手が溢れました。牛主任をはじめ南昌市外事弁公室の皆様のおもてなしに、訪問団一同、深く感謝いたしました。

●午後 団員 田村優佳 より

昼食後、南昌市第二十八中学との交流のため中学校へ向かいました。現地では広大な敷地を見学し、南宋の詩人「謝芳徳」の像や庭園などを説明してくださいました。部屋外は日本からの中学生を見ようとする生徒で溢れていました。生徒達から手ほどきを受け、刺繍や組み紐を教えてください、扇子に漢詩を書道で書いたりと中国文化を体験させてもらいましたが、特に刺繍はとても細い糸を用い緻密な技術で美しいなと思いました。また、こちらの学校にはドローンのクラブがあり、プログラミングによる実演がありました。このクラブを調べたところ、「Futures」科学技術クラブが全国コンテストで最高賞の「イノベーションスター」を受賞するなど素晴らしい成果を挙げられているとのこと、私もプログラミングの知識があるのでやってみたいなと感じました。

夕方からの芸術交流会では、生徒達による合唱やダンスの披露と京劇の演目もありました。映像でしか見たことが無かったので、京劇観覧はとても印象に残り歴史の雄大さと優雅さがあり目を引きました。

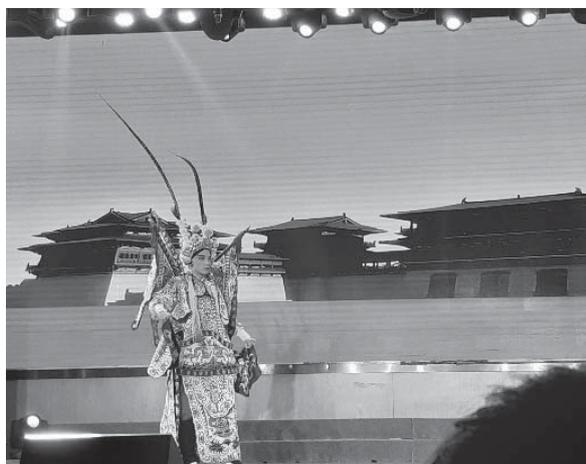
夕食は校内食堂にて団員とホームステイ先の中学生で食事をしました。ここで会話しながら頂いた茶碗蒸しやエッグタルトがおいしかったのを覚えています。



江南刺繍



プログラミングによる実演



京劇の演目



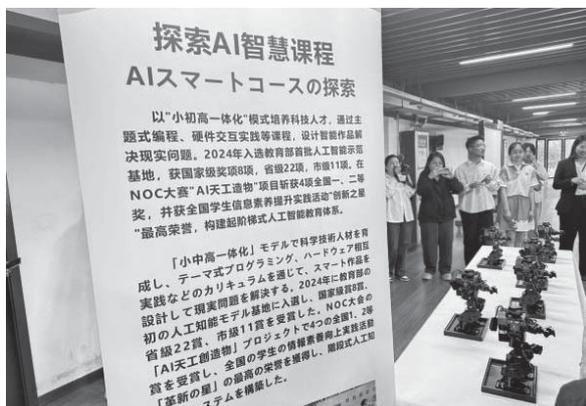
南昌市生徒達によるダンスの披露

## 南昌市第二十八中学校との交流プログラムについて

南昌市第二十八中学校は、南昌市東湖区疊山路に位置し、1970年に創立された「南昌市の名門校」です。敷地面積は21,510.72平方メートルで、131名の教職員と37のクラスに、1,700名以上の在校生を擁しています。

同校は、「尊厳ある教育を実践する」という理念のもと、生徒の個性を尊重し、道徳心を育む教育を推進しており、独自の「尊厳教育カリキュラム群」を通じて、自尊心と自信にあふれた青少年の育成に力を入れています。

2024年には、教育部より「第1回小中高AI教育拠点校」および「国家カリキュラム資源開発パイロット校」に選定され、さらに江西省より「第1回科学教育モデル校」にも認定されました。



～熱烈歓迎～

## 【南昌市第二十八中学校との交流日程】

- 13:45 学校到着・キャンパス見学（20分）
- 14:05 歓迎会（場所：6階会議室、30分）
- 14:35 没入型中国授業体験（場所：総合棟1階、55分）
1. 二十八中の生徒による扇を使った書道展示および贈呈
  2. 贛繡（江西省の刺繡）の展示
  3. 中国結びの実演および体験
- 15:30 テクノロジー遊園会（場所：小広場、40分）
1. AI受賞作品の展示
  2. ドローンショー
  3. ドローン操作体験
- 16:10 訪問団の着替えおよび準備（30分）
- 16:40 芸術交流会（場所：サンザシの木劇場、60分）
1. 日本側：高松市紹介（パワーポイント）
  2. 中国側：歌と踊り「魚、蓮の葉の間で戯れ」
  3. 日本側：部活動紹介（剣道、なぎなた、琴など）
  4. 中国側：京劇「羅成」
  5. 日本側：落語
  6. O×クイズ
  7. 日本側：盆栽踊り
  8. 中国側：チアダンス「共に未来へ」
- 17:40 中日生徒による夕食会（場所：学内食堂）



扇を使った書道展示および贈呈



中国結びの実演と体験

●午前 団員 津村和花 より

ホームステイ2日目の朝、ホストファミリーは、うどんのような温かい麺料理や焼売、ロールケーキ、大きなイチゴなど、バラエティに富んだ朝食を用意してくださいました。どの料理もとても美味しく、心のこもったおもてなしに感動しましたが、ボリュームが多く、お腹がいっぱいになりました。出発の際には、団員全員のためにイチゴを持たせてくださり、その優しさに心が温かくなりました。移動中、みんなでイチゴを分け合い、美味しくいただくことができたのも思い出深いひとときでした。



We love ♥ 南昌

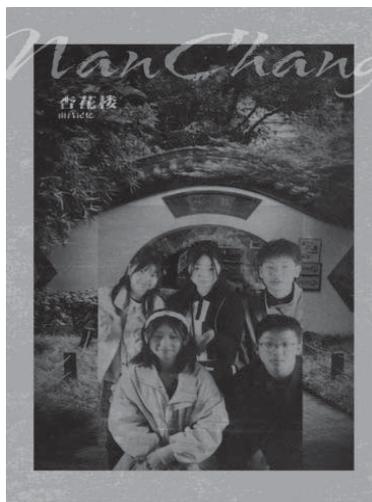


南昌都市計画展示センター見学

朝食後は、南昌規画展示センター（南昌都市計画展示センター）を訪問しました。館内では、南昌市の歴史や都市の発展の過程、自然環境や動物に関する展示を見学し、街の魅力や特色について学ぶことができました。中でも印象に残ったのは、チームラボのようなデジタル展示ゾーンです。ここでは、映像や音を駆使した体験型展示を通じて、南昌がVR技術の導入や発展に力を入れている都市であることを知り、先進的な取り組みに驚きました。

その後、南昌VRテーマパークに移動し、最新のVR技術を活用したさまざまなアトラクションを体験しました。中でも、VRゴーグルを装着して楽しむレーシングゲームは、まるで実際にレースに参加しているかのような没入感があり、日本ではなかなか味わえない新鮮な体験となりました。その他のコンテンツも工夫に富んでおり、南昌の技術力と創造力の高さを実感しました。

短い時間ではありましたが、多くの発見に出会うことができ、充実した時間となりました。



写真撮影でタイムスリップ

●午後 団員 平岡昇真 より



仲間たちとの食事会

昼食はバイキング形式で提供され、種類豊富な料理が並んでいました。中には寿司や味噌汁などの日本食もあり、思いがけない驚きとともに、どこか安心感を覚えました。午前中のVR体験で一部の団員が軽い酔いを感じていたものの、美味しい料理と和やかな雰囲気の中で、次第に元気を取り戻すことができました。

午後2時、南昌市の歴史的建築である滕王閣（とうおうかく）を見学しました。この樓閣は中国の伝統的な建築美を象徴する存在であり、鮮やかな紅色の建物が自然の緑と調和し、まるで絵画のような美しい風景が広がっていました。最上階から眺める南昌市の景色は壮観で、中国文化の深さと美しさを肌で感じることができました。

館内には多くの歴史的展示物があり、滕王閣にまつわる詩や文人の紹介なども興味深いものでした。中でも特に印象に残ったのは、刺繍作品の展示です。その中にはなんと人の髪の毛を使って刺繍された作品もあり、繊細さと独特の素材感が相まって、非常に中国らしい芸術表現だと感じました。

午後3時30分からは、萬壽宮歴史文化街区を散策しました。石畳の道沿いには古風な中国建築が立ち並び、そこに並ぶカラフルで現代的なショップや斬新なデザインとの対比がとても興味深く、不思議な魅力を感じました。売られている品物も、日本では見かけないようなものばかりで、一つひとつに新鮮な驚きがあり、街歩きがとても楽しいひとときとなりました。



『萬壽宮歴史文化街区』での散策

途中、雨が降り出しましたが、団員たちは雨を気にする様子もなく、街区の魅力に夢中になっていました。皆、カメラを手に建物や商品、景色を熱心に写真に収める姿が印象的でした。

夕方にはそれぞれのホームステイ先へ戻りました。充実した一日があっという間に過ぎ、別れを惜しむ声があちこちで聞かれました。ホストファミリーとの最後の夜を、皆それぞれに大切に過ごした様子が伝わってきました。



『滕王閣』へ



I Love ♥ 南昌

●夜

南昌市外事弁公室および教育局の皆様、そして学校の先生方のご案内のもと、団長および引率者は、島津陽さん、丸口由乃さん、十亀杏理さんのホームステイ先となっているご家庭を訪問しました。

それぞれのご家庭では、心のこもった温かい歓迎を受けました。訪問中は、団員たちがホストファミリーと共に楽しそうに過ごしている様子や、普段の中国の家庭生活を垣間見ることができ、とても貴重な体験となりました。

食卓を囲んで団員とホストファミリーが笑顔で会話を交わす姿、果物をふるまってくくださる様子など、どの場面からも心からのもてなしの気持ちが伝わってきました。また、文化や習慣の違いを超えて自然に交流している様子は、このプログラムの意義を改めて感じさせるものでもありました。

短い時間ではありましたが、一緒に笑い、語り、温かなふれあいの時間を共有できたことは、皆さんにとって忘れがたい思い出になったに違いありません。



ようこそわが家へ



島津さんのホームステイ先



丸口さんホームステイ先での寝室



十亀さんのホームステイ先



## ● 団員 丸口由乃 より



中国茶試飲会

中国茶は香り高く、ほっと一息つけるひとときとなりました。

続いて訪れた上海自然博物館では、友人たちと一緒に恐竜の化石標本や珍しい動物の剥製などを見学しました。広々とした館内には多くの展示があり、学びと驚きに満ちた時間を過ごしました。

その後は、上海市内の代表的な観光地である外灘と南京路へ移動しました。外灘では、歴史ある西洋風の建築が連なる趣深い街並みと、黄浦江の向こうに広がる近代的な高層ビル群とのコントラストが印象的でした。歩道から眺める浦東の夜景は圧巻で、上海の発展とエネルギーを肌で感じることができました。南京路ではショッピングや散策を楽しみながら、互いに記念写真を撮り合い、思い出を共有する光景があちこちで見られました。

昼食には、本場の上海料理を堪能しました。小籠包やエビチリなどの地元グルメを囲みながら、会話も弾み、旅の疲れも忘れるほど楽しいひとときとなりました。



最後の食事会 北京料理

朝、バスが出発した後も、ホームステイファミリーは最後まで手を振って見送ってくださり、別れを惜しむ温かな光景が広がっていました。名残を惜しみつつ、私たちは新幹線に乗り、次の目的地・上海へ向かいました。

上海に到着後は、現地ガイドの朱さんの案内で、市内の名所を巡りました。まず訪れた豫園商場では、中国らしい賑やかな雰囲気を感じました。伝統的な建築様式の中に活気ある商店が立ち並び、お土産選びに夢中になる団員も多く見られました。また、商場内でいただいた中



『上海自然博物館』

夜には、訪問団全員での最後の食事会が開かれました。料理は北京ダック。もうすっかりおなじみとなった円卓を囲みながら、これまでの交流や体験を振り返り、笑い声の絶えない時間となりました。ホテルに戻ってからも、別れを惜しむように談笑が続き、今回の交流の深さと、過ごした時間のかけがえのなさを改めて実感しました。

●団員 吉田ゆりか より

中国で過ごす最後の夜。スーツケースにお土産や、南昌で体験させてもらった「串家戦争」づくりの作品を一つひとつ丁寧にしまいながら、急に帰国するという実感が込み上げてきました。

これまでに見てきた賑やかで華やかな街並み、歩くたびに漂ってくる、日本ではかいたことのない食欲をそそる香り、言葉の壁を越えて仲良くなれた友人たち、そして何より、温かく迎えてくださったホームステイファミリーの優しい笑顔——。次々と思い出が浮かんで来て、ふと「まだ帰りたくない」と思うほど、心から充実した日々を過ごしていたのだと改めて感じました。

翌朝、団員全員でお揃いの髪飾りをつけて、上海浦東国際空港へ向かいました。空港に近づくにつれて、別れの寂しさが現実味を帯び、誰もが言葉少なになっていきました。飛行機の窓から見える中国の景色がだんだんと遠ざかっていくのを見つめながら、心の中で中国で出会ったすべての方々に、感謝と別れの気持ちを込めて静かにお礼を伝えました。

この貴重な訪中体験を、ただの楽しい思い出として終わらせるのではなく、自分の中にしっかりと根付かせ、学んだことをこれからの生活や学びに活かしていきたいと思います。

Thank you for everything. I hope to see you again.

無事に高松に到着したとき、心には中国での6日間は色鮮やかに残っていました。それは、言葉にし尽くせないほどの経験と、たくさんの人との出会いに彩られた、かけがえのない時間でした。



中国との固く結ばれた絆



みんな無事に帰ってきました

# 感想文



## 中学生訪中親善訪問団の成果

第 27 回中学生訪中親善訪問団長 高松市教育委員会学校教育課

指導主事 前川 雄治



南昌市規画展示センターにて

この度、私は高松市と南昌市の友好交流プログラムにおいて、中学生訪中親善訪問団を引率する団長として参加しました。この6日間は、未来を担う若者たちが異なる文化や価値観に触れ、人とのつながりを深める貴重な機会となりました。彼らの成長を見守りながら、私自身も多くのことを学び、大変意義深い経験となりました。

初日、上海に到着後、中国雑技を観覧しました。中学生たちは、目の前で繰り上げられる驚異的な技に目を輝かせ、その真剣な表情から旅のスタートに対する期待と興奮が伝わってきました。この雑技の演技は、中国文化の豊かさを感じさせるもので、彼らの心に強い印象を残したようでした。

2日目、中国の高速鉄道に乗り、南昌市へ向かいました。高速鉄道の速さと快適さに驚きながら、移動中も中学生たちは車窓から見える景色を楽しみ、終始活気に満ちた様子でした。南昌市に到着後の歓迎昼食会では、地元の郷土料理を味わいながら、現地の方々との交流を深めました。その後、観覧車に乗り、南昌市の景色を一望しました。中学生たちが都市の広がり感動し、南昌市での生活や文化に対する興味を一層深める姿が印象的でした。また、手工芸体験では、中学生たちが自分の手で作品を作る楽しさに没頭し、伝統文化の奥深さに触れる機会となりました。その日の夜には、ホストファミリーとの対面式が行われました。中学生たちは、初めてのホームステイ生活に対する期待と少しの不安を抱きながらも、ホストファミリーに温かく迎えられ、すぐにリラックスした表情を見せていました。

3日目の最初は、高松・南昌友好会館で表敬訪問を行いました。現地の代表の方々から南昌市についての紹介があり、中学生たちは真剣な様子で耳を傾けていました。地域の歴史や交流への期待について話を聞き、彼らはこのプログラムの意義を実感していたようです。その後は、同会館で日本のお

菓子やお茶、中国の飴や風鈴作りを通じて交流を行いました。中学生たちは、互いの国の文化を楽しみながら、笑顔で風鈴作りに挑戦していました。お菓子や飴を味わいながら自然と会話が生まれ、親しみを感じながらも文化の違いを理解し尊重する姿が印象的でした。その後、南昌市第二十八中学校を訪れました。学校紹介では、日本とは異なる広々とした施設や設備の充実ぶりに驚きました。部活動体験では、ドローンや刺繍、書道を体験しました。刺繍では繊細な技術に挑戦し、書道では筆を使って文字を書く楽しさを味わいながら、文化の伝統に触れることができました。中学生たちはどの体験にも積極的に取り組み、異なる活動を通じて多くの学びを得ていました。交流会では、現地の中学生と一緒に踊ることで文化や言葉の壁を超えた交流が生まれ、中学生たちは笑顔で楽しいひとときを過ごしました。夜にはホストファミリーとの日常生活を共にし、異なる文化に根ざした習慣や価値観に触れながら大いに学ぶ機会を得ていました。

4日目には、南昌市規画展示センターやVRテーマパークを訪問しました。未来を感じさせる展示を見たり、最先端技術を駆使したアトラクションを体験したりして、中学生たちは目を輝かせていました。その後、滕王閣を訪れました。この場所では現地ガイドによる案内を受け、建物の歴史や建築の背景について詳しい説明を聞くことができました。中学生たちはその壮大な建築美と歴史の重みに感動し、熱心にガイドの話に耳を傾けていました。滕王閣から見渡す景色も素晴らしく、異国の風景の美しさを存分に味わうひとときとなりました。その後訪れた万寿宮歴史文化街区では、自由に見学しながらそれぞれが楽しむ姿が見られました。

5日目、ホームステイの締めくくりとしてホストファミリーとの別れが訪れました。短い滞在ながらも、ホストファミリーと築いた絆は深く、別れの場面では涙を流す姿もありました。私もその光景に胸が熱くなる思いでした。その後、上海に戻り、昼過ぎには外灘を訪問しました。歴史的な建物とその背後に広がる近代的な街並みのコントラストは非常に美しく、中学生たちも写真を撮りながらその景色を楽しんでいました。夜には南京路へ移動し、ライトアップされた街並みの美しさや活気あふれる雰囲気に魅了され、中学生たちは最後の観光を存分に楽しみました。

今回の交流プログラムを通じて、中学生たちは文化や価値観の違いに触れ、新しい視点を得る機会を持ちました。お茶会やドローン部での体験、踊りを通じた交流では、言葉や文化の壁を超えて絆を強められることを学びました。また、滕王閣や万寿宮歴史文化街区などで歴史的な建造物や文化財に接することで、中国の歴史と伝統文化への理解を深めました。

未来を担う中学生たちが、これからも国際的な視野を持ち、多様な価値観を尊重しながら、広く世界で活躍する人材へと成長していくことを心から願っています。最後になりましたが、中学生訪中親善訪問団を温かく迎え入れ、学びと友好の機会を与えてくださったすべての関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



中学生との交流会



## 訪中親善訪問団、南昌市への旅

第 27 回中学生訪中親善訪問引率 高松市国際交流協会

事務局員 王 曉純

春風化雨，潤物無声；青春作舟，友誼為橋。「春風化雨、潤物無声；青春を舟とし、友誼を橋とする。」  
※「春風化雨、潤物無声」とは、文化交流がまるで春の雨のように、静かに心を潤すことを意味します。  
「青春を舟とし、友誼を橋とする」とは、若い世代が友誼の橋を架けて航海する姿を表しています。

この春の訪れとともに、私たちは高松から旅立ち、友誼と成長を育む日中青少年交流事業がスタートしました。まずは、出発当日のお忙しい中、お見送りにお越しいただいた大川観光の湯之上課長、日本春秋旅行の庭瀬所長、学校の先生方、そして保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援と励ましが、私たちの出発を安心と喜びで包んでくださいました。去年は新型コロナウイルスの影響で高松と上海間の直行便が再開されず、関西国際空港からの出発となりましたが、今年は無事に高松から直接出発することができました。これは大変な利便性をもたらしていただけでなく、両市の交流が徐々に平常に戻りつつあることを象徴しています。

今回、私は二度目となる中学生訪中親善訪問団の引率者を務めさせていただきました。去年の経験を活かし、旅程の配置や細部にわたる部分をさらに改善しました。ただ、心配だったのは、この6日間の旅程が気温の変動が激しい時期と重なり、最高気温が30度近くまで上がる一方で、最低気温は10度前後まで下がることでした。団員の体調管理のため、出発前から体温計などの緊急用品を準備しました。去年の経験はありましたが、団員の安全を預かる責任の重さに、内心やや不安も感じました。しかし、その責任感こそが、今回の任務を全力でやり遂げる原動力となりました。

今年の訪問交流活動で、特に印象的だったいくつかのハイライトを皆様と共有させていただきます。



事前研修の講師と一緒に



南昌市外事弁公室、友好会館の方々と一緒に

### 【高松市・南昌市友好都市提携35周年特別企画】

今年が高松市と南昌市が友好都市提携を結んで35周年の節目の年です。これを記念し、南昌市外事弁公室と十分な協議を重ねた上で、南昌友好会館において「日本茶・県産品試飲試食会」を通じた

高松市の魅力発信イベントを開催いたしました。同イベントの実施にあたりましては、南昌市外事弁公室並びに友好会館の皆様から多大なるご支援を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。日本文化をより深く伝えるため、事前研修会では茶道の礼儀作法も学びました。装道礼法きもの学院の森先生のご指導に心から感謝申し上げます。

### 【南昌市第二十八中学校との芸術交流会】

南昌市第二十八中学校は「南昌市の名門校」であり、コロナ禍により派遣事業が一時中断された期間中も、中日友好交流への熱意を絶やすことなく、「高松市・南昌市オンライン交流会」という形で交流をしてきました。今回の訪問にあたって、学校側はさまざまな工夫を凝らした充実したプログラムを用意してくださり、温かく迎えていただきました。

芸術交流会では、恒例の「高松紹介プレゼン」や「クイズ大会ゲーム」に加え、今年は「日本の学校部活動紹介」の内容を設けました。団員が演奏した「赤とんぼ」の箏曲動画を上映され、そして、この曲は中国観客の皆様のご共感を呼びました。「赤とんぼ」は日本を代表する童謡の一つで、美しいメロディーが中国でも広く知られ、多くの人々に愛されています。このような音楽交流を通じて、日中友好の心の橋が築かれ、互いの文化がより深く理解され、尊重されることを願っています。

さらに、ステージ実演で日本の武道である剣道となぎなたの技とその違いを紹介しました。観客の皆様には、その精神性―「武を通じて徳を修める」「伝統を尊ぶ」という武士道の核心的な価値観も伝えました。

日本文化紹介の一環として、落語の歴史や特徴、演じ方を解説し、落語「鬼の面」を実演しました。会場からは温かい拍手をいただき、団員自身も落語の伝統的な文化的価値をより深く理解する機会となりました。

交流活動の最後には、簡単なレクチャーを行い、団員達と南昌の中学生と一緒に舞台上で「盆栽ダンス」を披露しました。会場は明るく盛り上がり、素敵な思い出が刻まれたことでしょうか。このダンスの実現には、高松市の「盆人プロジェクト」チームや保護者の皆様のご多大なご協力をいただきました。関係各位のご支援があつてこそ、このような交流が可能となることを改めて実感しました。

最後に、団長をはじめ、団員の皆様にご感謝申し上げます。前川団長は教育の専門家として、生徒たちの意見を効果的にまとめ、素晴らしい提案を引き出してくださいました。旅の中、チームの雰囲気は終始和やかで楽しいものでした。

6日間にわたる訪問交流活動は、充実した成果を収め、無事に幕を閉じました。この事業が今後も継続し、日中友好の使命を担う次世代が育つことを願ってやみません。私自身も、理解と友情の橋をさらに架けるべく、尽力してまいります。



訪問団の皆さん



## 文化の違いにふれて広がった視野

高松市立桜町中学校 2年 小松 亜弥理

3月25日、不安と期待に満ちた気持ちで向かった飛行場。訪問団の仲間8人で協力し合いながら乗り越えた6日間は、忘れられない大切な思い出となりました。

南昌や上海の料理は、日本のものとは見た目も味も大きく異なりましたが、美味しいものがたくさんありました。



上海での食事

これまでは「中華料理」というひとくくりで考え、香辛料を多く使うイメージを持っていました。けれども、中国は日本の約26倍の広さがあるため、地域によって使う材料や味付けがまったく異なることを知りました。



ホームステイの方々と一緒に

また、移動手段にも違いが見られました。車や自転車に加え、軽型電動自転車で通勤・通学する人が非常に多く見られました。中国の法律では、軽型電動自転車の運転について、免許証が不要のようです。安全面に対する考え方にも違いがあると感じました。

今回のホームステイを通じて、文化や生活様式の違いを肌で感じるとともに、日本の暮らしやすさや安全性、ルールやマナーを重んじる国民性について、改めて気づくことができました。普段は当たり前だと思っていた日本の生活環境のありがたさを実感し、今後の生活にも感謝の気持ちを持って過ごしたいと思います。



中国の道路



## 中国訪問を通じて学んだ「ユニークさ」の力

高松市立高松第一中学校 2年 島津 陽

今回の中国訪問を通じて、私が最も強く感じたのは「ユニークさ」の大切さでした。中国は今、先端技術産業をはじめとしたさまざまな分野で世界トップレベルの発展を遂げています。その背景には、中国独自の発想や柔軟な創造力があるのではないかと感じました。

特に印象に残っているのは、現地の学校で見学したプログラミング部の活動です。部員たちは、ロボットにダンスを踊らせるというユニークな演目に取り組んでおり、まだ学びの途中でありながらも、プログラミングを上手に駆使して滑らかで面白い動きを実現していました。そうした姿から、自由な発想を大切にしながら技術を伸ばしていく中国の教育や文化のあり方に大きな刺激を受けました。

また、カメを丸ごと調理した料理や、命がけの技を披露する中国雑技団の演目、そして壮大な歴史的建造物など、どれも日本ではなかなか経験できないような強烈なインパクトを持つものばかりでした。それらはただ驚くだけでなく、「衝撃」と「面白さ」を同時に感じさせる力を持っていて、まさに中国ならではのユニークさの象徴だと思います。

こうした体験を通じて、私自身も、将来は「驚き」と「楽しさ」を融合させた新しい価値を創り出し、日本の発展に貢献できるような人間になりたいという思いが強くなりました。この訪問は、私の人生観にも素晴らしい影響を与えてくれた、有意義でかけがえのない国際交流の機会でした。

このような貴重な経験をさせていただいたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ロボットをプログラミングしてダンスを踊らせている



カメを丸ごと使った料理



上海・外灘地区の巨大建築



上海雑技の演目



## This journey impacts on my life !

高松市立龍雲中学校 1年 十亀 杏理

私は訪中親善訪問団として中国に行くにあたって3つの目標を立てていました。

目標の1つ目は誰とも積極的にコミュニケーションをとることです。私の英語や中国語が通じるのか不安ではありましたが、まずは話してみることを常に心掛けました。日本から上海に向けての飛行機の中で、隣に座った中国の方とのコミュニケーションを楽しむことができ、幸先のいいスタートとなりました。ホストマザーが英語教師だったこともあり、ホームステイ中は翻訳機を使わずに英語でコミュニケーションを取りました。分からないこと、伝わらないこともありましたが、くじけずジェスチャーを交えて伝えるようにしました。ホストメイトやその友達とは日本のアニメの話題で意気投合し、楽しい女子トークができたと同時に、改めて日本のアニメの影響力のすごさを実感しました。

2つ目は中国のスケールの大きさを肌で感じてくることです。見たことがない高さの建物やオシャレなビルなど、現代的な建物に驚いたのはもちろん、中国の歴史を感じることができる滕王閣では随所にちりばめられた彫刻の技術の高さや模様の華やかさに感動しました。また、南昌市はVR技術が盛んな都市でもあり、技術面の発展も感じることができました。ホームステイでは中国のリアルな日常を体感できました。なかでもホストマザーの後ろに乗り、バイクで南昌市の夜の街を走ったことは忘れられない思い出となりました。

3つ目は盆栽体操を楽しく踊り高松盆栽をしっかりと印象付けてくることです。学校交流会の出し物の1つとして盆栽体操を踊りました。振付レクチャーをした後、南昌市の学生と一緒に大きなステージで踊れてすごく気持ちよかったです。BONBON ポーズも南昌市で広まってくれるといいなと思っています。中国文化体験イベントや学校交流会で見せていただいたファッションショーや音楽演奏、学生のダンスなど、どれも素晴らしかったです。また、扇子に字を書く体験や中国結び、刺繍体験などを通して中国の方は自国の文化を大切にし、受け継いでいるんだなと感じ、私も見習いたいと思いました。

今回の訪問を通して日常ではできない経験をさせていただき、私が思っていた中国とは違う側面をたくさん見ることができました。まさに seeing is believing ! 何事も目で見て経験してこそ正しい理解と知識につながると思いました。この経験を活かし、今後も国際交流活動に積極的に参加していきたいです。

最後に、団長先生、王さん、そして訪問団の仲間が居てくれて本当に心強かったです。この旅を通してできた縁をずっと大切にしていきたいです。謝謝！



お友達と一緒に



思い出のバイク



みんなで盛り上がった盆栽体操



## 南昌市親善訪問から私が得たもの

香川県立高松北中学校 2年 田村 優佳

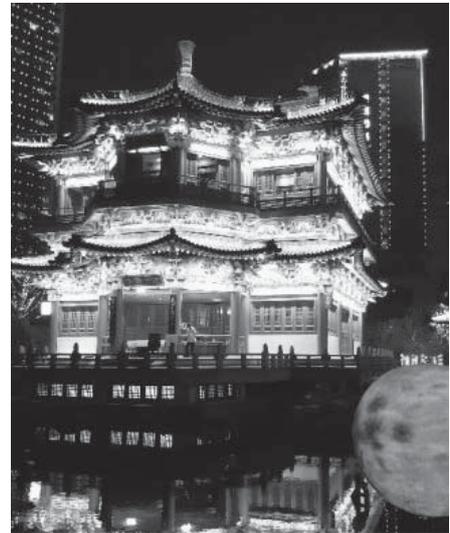
今回、「第 27 回高松市中学生訪中親善訪問団」に応募しようと思ったのは、姉が本校行事である台湾語学研修に中学 2 年で参加したことがきっかけでした。姉は帰国して、海外の同世代との交流が新鮮だったことや、雰囲気や空気感の違いを感動が溢れた様子で話していました。そこから私は海外に関心を持つようになり、また、部活でお琴をしているので、この訪問で日本文化も伝えられるのではないかと思います、参加を決めました。

しかし、初めての海外、初めてのホームステイです。緊張と不安でいっぱいでしたが、この団員のメンバーで同行できたことが励みとなり、楽しもうと切り替えることができました。訪問前に、南昌市の歴史や観光名所、名産や郷土料理を調べてい

ましたが、広大すぎて観たい所がたくさんあり、日数が足りないと感じるほどでした。印象に残っているのは、ホストファミリーが「滕王閣」のライトアップに連れて行ってくれたことです。江南三大名楼だけあって、その雄大さと迫力に圧倒され、それが照らされることでよりいっそう華やかで美しいものだなと感じました。

そのような地区にある南昌市第二十八中学は、校訓が「学优秀的别人，做最好的自己。(優れた人々から学び、最高の自分になりましょう)」とのことで、古風な優雅さや品格と個性が融合する学校だと感じました。その校風のように生徒は自国への帰属意識をもち、文化の継承を重んじつつ、高度な学習により独自性と豊かな創造力を持ち得ているように見えました。ホームステイ先の家族はこの学校の生徒でしたが、やはり興味関心の高さがうかがえました。英語が堪能なことはもちろんのこと、ギター演奏や絵画など多才で素晴らしいなと思いました。

このような同世代の交流を体感するだけでなく、政府機関への訪問も受けてくださるなど、貴重な体験とはまさにこの事で、感謝しかありません。そして、ホストファミリーや団員のみんな、出会ったすべての人々からたくさんの宝物をもらいました。私は、ここで得たことを今後の生活に繋げていきたいです。これから、たくさんの外国の方が香川に来県されます。南昌市の生徒が自国の文化を大切にされていたように、私も日本文化や風習などを伝えていき、海外との懸け橋となる人になりたいです。



「滕王閣」のライトアップ



ホストファミリーと一緒に



## 自分の目を見た「ほんとうの中国」

香川大学教育学部附属高松中学校 1年 津村 和花



高松空港で出発あいさつ

出発前の私は、中国へ行くことに対して少なからず不安を感じていました。その主な理由は、日常的に目にするニュースやインターネット上の情報に影響されていたからです。そうした報道から、知らず知らずのうちに中国に対して偏ったイメージを持っていたのかもしれません。

しかし、実際に現地を訪れ、心からの歓迎を受けたことで、私の中国に対する印象は大きく変わりました。特に今回の訪中親善訪問を通して、私は二つの大切なことを学びました。

第一に、「分かり合おうとする気持ち」の大切さです。私は簡単なあいさつ程度の中国語しか話せなかったため、ホームステイ先では言葉が通じず戸惑う場面もありました。そんな中、ホストファミリーのパートナーが翻訳機を使い、「あなたは名探偵コナンが好きですか？」と尋ねてくれました。実は、私もコナンが大好きで、その一言から会話が盛り上がり、一気に打ち解けることができました。この経験から、たとえ言葉が通じなくても、共通の関心事や思いやりのある姿勢があれば、人と人は心でつながることができる実感しました。文化や言語の違いを越えて共感し合える喜びを心から感じました。

第二に、「メディアなどの情報に流されるのではなく、自分の目で見て知ろうとする姿勢」の大切さです。帰国後、「中国は大丈夫だった？」と心配そうに聞かれることが何度かありました。かつての私と同じように、中国に対してネガティブな印象を持っている人が少なくないのだと改めて気づかされました。しかし、私が実際に現地で出会った方々は、皆さんとても親切で温かく、異文化交流を心から歓迎してくださいました。だからこそ、自分が見て、感じてきた中国の素晴らしさや、人々のやさしさを、できる限り多くの人に伝えていきたいと強く思うようになりました。

最後に、今回の訪問を通してたくさんの学びと出会いを得られたことに感謝しています。引率して下さった前川団長、王さん、そして共に旅をした大切な仲間たちに心から感謝申し上げます。皆さんと一緒に中国を訪れ、国境を越えた友情と理解を深めることができたこの経験は、私にとって一生の宝物となりました。



中国での買い物



## かけがえのない人とのつながり

高松市立協和中学校 2年 平岡 昇真

「初めての海外への旅が中国でよかった!!」と思える旅になりました。

私が最も印象深かったことは、南昌市の人々の温かさや“Welcome”な雰囲気です。

現地の中学校の門をくぐると、「Welcome to my school!」と熱烈的な歓迎を受け、私たちに興味を持っていることが分かり、とても嬉しかったです。特に記念になったのは交流会です。全員で用意してきたものをやりきった時には、すごく達成感がありました。大いに盛り上がった交流会は大成功でした。



南昌市第 28 中学校の生徒たちと

パフォーマンス後、すぐにみんなが私たちに駆け寄って来て、写真を撮ったり、WeChat で連絡先を交換したりしました。言語など関係なく、「仲良くなりたい!」という気持ちさえあれば通じ合えると実感しました。

また「どんな人と一緒に過ごすのだろう?」と一番不安だったホームステイは、結果的に最高の思い出となりました。ファミリーとの会話が楽しくて、止まらなくなり、連日睡眠不足の朝でしたが、これも良い思い出になりました。

出発の朝、ホストファミリー全員でバスが見えなくなるまで手を振ってくれて、本当に別れが惜しく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ステイ中、たどたどしい英語での会話でしたが、相手を思う気持ちと理解しようとする姿勢があれば、心が通じ合うこと、身をもって知りました。また、ホストファミリーからのこの言葉は胸に響きました

— “Without experiencing wind and rain, how can we see a rainbow?”

(訳：風と雨を経験しないで、どうやって虹を見ることができるのか?)

最後に、この事業で関わられた方々に心からお礼申し上げます。このかけがえのない時間や絆を大切にしていきます。『謝謝』



親愛なるホストファミリー



ホストファミリーとの夕食



## ポップカルチャーがつないだ友情 ～南昌での心温まる体験

高松市立紫雲中学校 1年 丸口 由乃

知らない土地で、知らない家庭に滞在する——そんな不安の中で始まった訪中親善訪問でしたが、私はそこでかけがえのない経験をすることができました。特に印象的だったのは、言葉が通じない中でも、アニメや音楽を通じてホストファミリーと心を通わせた瞬間です。そのとき感じたあたたかさを、私はこれからもきっと忘れません。

今回の訪問団の活動では、南昌がもつ悠久の歴史や伝統文化に触れる機会も数多くありました。しかし、私にとって最も心に残ったのは、ポップカルチャーが持つ力でした。

実際、私が南昌の人々と中国語や英語でスムーズに会話できた場面は多くありません。私自身の語学力には限りがあり、会話の約8割は翻訳アプリに頼っていました。ホストファミリーのタンさんとのやりとりも、その多くがアプリを介して行われました。けれど、ある晩、私たちは日本のアニメを中国語字幕付きで一緒に見ていました。そのときタンさんが、「この男の人はかっこいいよね」と言ってくれました。私は思わず笑顔になり、「私もそう思う！」と返しました。その何気ない一言から、一気に空気が和らぎ、笑い合いながらアニメを楽しむことができたのです。

また、日本の青春ソングや、中国で流行っているポップソングについて語り合い、お互いのスマートフォンから曲を流して盛り上がった時間も、まるで旧知の友人のような親しさを感じさせてくれました。国籍も言語も異なる私たちが、同じ瞬間に、同じ感動を共有できたことが、本当に嬉しかったです。そして、アニメや音楽といったポップカルチャーには、言葉や文化の壁を越える力があることに、心から感動しました。

訪問中、私は日本から持ってきたアニメのクリアファイルをお土産としてタンさんに渡しました。すると翌日、タンさんは中国の人気漫画の缶バッジをプレゼントしてくれました。その心遣いがとても嬉しく、帰国した今でもその漫画を翻訳アプリを使いながら少しずつ読み進めています。内容は難しいですが、登場人物や物語の世界観を楽しんでいます。

この訪問を通して得た経験は、私にとって一生の宝物です。言葉が通じなくても、人と人は共通の「好き」や「楽しい」でつながることができる。それを実感させてくれた南昌での数日間に、心から感謝しています。



八一広場のシンボルタワー



万寿宮の近くにあった屋台



上海の街並



## 中国での忘れられない思い出

高松市立木太中学校 2年 吉田 ゆりか



南昌「木彫」の手工芸体験

中国訪問の前日、不安と緊張でいっぱいだった私ですが、あっという間に感じるほど沢山のことを自分の肌で感じ、忘れられない思い出を胸に笑顔で帰国することが出来ました。その中でも心に残ったことが三つあります。

一つ目は、英語の重要性です。私は中国語をほとんど話すことができないので、特にホストファミリーと上手くコミュニケーションが取れるのか心配でした。しかし初対面の時、ペアの知儀が、「大丈夫、私たちは良い友達になれるよ。」と

英語で話しかけてくれました。その一言で安心して私も英語で話すことができ、英語が世界共通語とされている意味、色んな国の人たちとお互いの考えを理解する上で必要だと改めて感じました。

二つ目は、お互いを思いやる気持ちです。正直、私は日本人なのでなかなか受け入れてもらえないのではないかと考えていました。しかし、出会う全ての人々が優しく接してくれ、とても心が温かくなりました。ホストファミリーのお母さんは「今日は寒いから風邪をひかないように気をつけてね。」「これは食べられる？何が食べたい？」といったことを気にかけてくれて、本当に嬉しかったし、心強かったです。文化や言語が違うからこそ、相手と向き合ってお互いを思いやることで心が繋がると、身をもって学びました。

三つ目は、自己主張の大切さです。南昌市第二十八中学校へ訪れた時、多くの生徒たちが私達を喜んで迎えてくれ、「連絡先を教えて!」「私は〇〇だよ!」「ハグして!」など、英語や中国語、ジェスチャーで積極的に話しかけてくれて、驚いたと同時に、自分のことや意志をしっかりと相手に伝える力を見習いたいと思いました。私も英語と出来る限りの中国語でありがとうと感謝を伝えました。今でも何人かの友達と連絡を取り合っています。また、今までは外国の方に話しかける事が迷惑でないかと躊躇し、自分から話しかけられませんでした。今回私が中国に訪れて逆の立場になった時、現地の方が話しかけてくれた事がとても嬉しかったので、これからは外国の方はもちろん、困っている人に自分から積極的に声をかけられる人になりたいとこの経験から思うようになりました。



各ホストファミリー一緒の食事会

このように、6日間で学んだ多くのことが私の心に強く残っています。これから私たちは新しい環境や様々な困難に直面するでしょう。ですが、そこで不安に思い、立ち止まるのではなく、この経験を糧に一歩一歩前進し、成長していこうと思います。

最後になりましたが、前川団長をはじめ、王さん、ガイド朱さん、私たちのことを支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

